

内分泌代謝疾患レジデントマニュアル 第3版

吉岡 成人, 和田 典男 著

成田 琢磨

(秋田大大学院准教授 内分泌・代謝・老年内科学)

医学に限らず、科学の分野はまさに日進月歩であり、しばらく前に通用していた知識、技術が日々変化していています。われわれの日常臨床の専門分野である内分泌代謝分野についても同様で、たとえば糖尿病治療では10年くらい前は研究の一分野であったインクレチンが、日本でも昨年から一気に4種類の薬剤が市販され、糖尿病治療を大きく変えようとしています。また第3版の序に吉岡先生がお書きになっているように、原発性アルドステロン症の診断の進歩や、実はありふれた疾患であることの再認識、メタボリックシンドロームのクローズアップ、アクロメガリーの治療薬の進歩、エプレレノンの登場など内科的にここ数年、内分泌代謝疾患の診断治療のパラダイム変化が急激に起きてきています。またこれも吉岡先生が書いておられますが、内分泌代謝疾患は決してまれなものでなく、他の分野の診療でも、たとえば糖尿病は避けて通れないし、電解質異常を的確に補正するにも原因として内分泌疾患を正確に鑑別しないと治療効果が上がらない、また頻脈・不整脈の背景に甲状腺機能異常がかなりの割合で潜み、見逃されると後で大変です。また特異的な症状を出さない場合が多く、常に内分泌代謝疾患を種々の病態の背景疾患として考えないといけないことを、いろいろな分野の先生方に認識してもらう必要があります。

そのなか、吉岡・和田両先生が、内分泌代謝分

野の進歩をアップデートなかたちで改訂されたのが、この『内分泌代謝疾患レジデントマニュアル 第3版』です。もともとレジデントや非専門の先生方にとって、取り付きにくい分野である内分泌代謝疾患に関して、手っ取り早く、かつ正確に診断・治療の知識を解説されたものですが、実はわれわれ専門家も白衣のポケットや外来・病棟の机に常備し“あれどうだったかな？”と思ったときいち早く手が届くのがこのマニュアルです。今回の改訂では2010年に変わった事項も(たとえばHbA1c値のJDS値とNGSP値の問題、診断基準の改定内容、インクレチン治療や、原発性副甲状腺機能亢進症でMIBIシンチが保険適用になったことなど)カバーされており、タイムリーな改訂です。また、甲状腺疾患と妊娠の問題、バセドウ病治療ガイドラインの内容など詳しく書かれており、内分泌を専門とするわれわれも知識の整理に非常に有用な一冊です。また巻末にインターネット時代を反映し種々の学会、ガイドラインなどのwebサイトを紹介しているのも新たな配慮と思われます。

もちろん、レジデント・非専門の先生にも頻度の高い疾患を中心に過不足なく、かつ文献も示しながら、症例やSide Memoを通して詳しい知識が得られ、この一冊があれば自信をもって内分泌疾患患者に対応できるように配慮されています。ぜひこの一冊を携帯して、日々の診療の内分泌代謝疾患の診療指針としていただければと思います、ご推薦申し上げます。☑

● B6 変型 頁 368 2010 年
定価 3,360 円(本体 3,200 円+税 5%)
[ISBN 978-4-260-01011-5] 医学書院刊